

本書の目的は、人は靈性進化によって、高級靈界と接触
できること。生命の充足を知り得ること。これらを示す。
本書は、単純にして実践的な靈性進化の道を説く。本書
はあくまでも、理論でなく、実践に基礎をおいて説く。
本書はまた、心霊治療の問題を明らかにする。靈癒の起
こる根源を示す。それに付随した諸法を明らかにする。

訳者まえがき

グレース・クック女史は一九七九年他界した。それは長年月にわたる顕幽交通に捧げられた、尊い献身の生涯であった。女史は一九五八年刊のSUNRISEの「序」で次のように述べている。

「私には生まれつき霊視能力がありました。子供の頃から、亡くなった人達の姿が見えたり、その声が聞こえたりしました。それは自然にそういう風になるのです。ですが後年になって、自分の意志で、他界と交通する術を身に付けるよう訓練をさせられました」「この能力の故に、私は沢山の悩める人々と会う人生を、自分の運命としてしまったのです。勿論、悩みの原因には色々

あるのですが、特に、親しい人との死別が原因になってることが、大変多いのです。こうして、他界の死者の声を伝えて、人を苦しみから救ってあげる私の仕事が続いたのです」「私は約五十年間もこの仕事を続けてきました。しかし、その間、私は決して一人ではなかったのです。私には敬愛する霊師がいました。その名はホワイト・イーグル、これは仮名ですが、この霊師がいつも一緒にいて、私を助け、私を指導してくれました」

ホワイト・イーグル霊はグレース・クック女史にとっては、心靈学的に言えば支配霊である。しかし、この支配霊は、単にクック女史個人を指導するための通常のものではなさそうで、いわば人類的使命を帯びてクック女史を使っている、特殊の高級霊のようなのである。女史はこのことを、次のよう

に記している。

「ホワイト・イーグルは、白色同胞団 (White Brotherhood) の一員です。ホワイト・イーグルとは聖ヨハネの仮名です。彼は古い古い時代からの、英知と真理を伝えるための一使徒です」

私は、この聖ヨハネ（イエス十二弟子の一人、ヨハネ伝の筆者と言われる。またヨハネ黙示録の筆者という説もある）の名によって、彼が幾つかの優れた霊界通信の通信霊の一人であることを思い浮かべる。ステイントン・モーゼスの『靈訓』の四十九人の通信霊の一人。また、アラン・カードックの『靈の書』の通信霊団の一人。その名が重複しているのはヨハネだけでなく、ソクラテス、プラトンその他、幾つもある。ということは、これら主要な近代

の啓示、これがある一貫した神霊界の計画の下に、幾人もの霊媒やグループを通じて伝えられているらしいということである。年代的にみると、『霊の書』が最も古く一八五〇年代、『靈訓』は一八七〇年代、『ホワイト・イーグル』は一九三〇年代から一九七九年のクック女史の死まで。なお、ここでもう一つ忘れてならない通信は『シルバー・バーチ』、これは一九二〇年代から、五年前の受信者バーバネル氏の死まで、続けられた。

さて、これらが共通の通信源から出ているのではないかと思わせる、その根拠は、聖ヨハネが前記三つの通信に参与していることである。クック女史は、この点について一つの暗示を与えている。前述の「イーグルは、白色同胞団の一員です」これです。いったい白色同胞団とは何か。女史の記述を続けて

みよう。

「白色同胞団の特権は、神が人類に啓示された靈的真理である太古の英知、これを諸民族に、時代と共に伝えることです。この中に人類経験のエキスがあります。この中に、人類が靈的に身体的に、その本性を開顕していく秘鍵が隠されています。つまり、人間が自己統制をする法・原理・方法・儀式、これあればこそ、人類の諸問題が悉く解決されていく鍵、それがあります。それは従来、少数の人士に教えられ守られてきた偉大な真理、それが今、人類の手に渡されようとしているのです。

この秘義はあらゆる時代を通じて、ごく少数の人達の手で守られてきたものです。（訳者注・女史は幾つかの神秘主義団体名を記している）この仕事は、

隠れた場所で心の貧しい弟子達に伝えられてきました。白色同胞団の仕事は現在も進行しており、人類の文明史上、良い面の進歩には、これからの多大の影響が及んでいたのです。

白色同胞団は、現界と靈的世界の両方に実在しています。地上界を担当する成員は、その靈示と力を、靈界の団体から受け取っています。ホワイト・イーグルの語る言葉は、この上方からの声に基づいたものです」

さて、クック女史が、そのヴェールの一端を掲げて、チラリと示してくれたこの白色同胞団であるが、どうも実在するらしいのである。従来、神秘主義団体では知られていたが、俗界では未知の存在である。かりに気付いても、単に神秘主義内部の秘事くらいにしか思わなかったわけである。しかし、ど

うやら人類の運命の操作にたずさわっているのは、この聖なる高級霊の団体の仕事らしいのである。

この二十世紀末、人類の文明の一大変革、ひいては人類の運命の変化が起り始めている。今までひそかに裏面で隠れて仕事をしてきた、白色同胞団が急激な、ある程度表面に現れて仕事をする状況が発生している。十九世紀の半ば以降、次々に発生した前記の優れた霊界通信、いわゆる現代の啓示は、どうやらこの団体の一連の計画された仕事のように思われる。また同じく、十九世紀半ばに発生した心霊研究も、それと併行した同じ計画の一環のようである。

この団体の活躍は、何も今始まったことではない、釈迦・イエスを始めと

する、文化・政治・経済の卓越した指導者達は、この団体の成員であるらしい。つまり、ことほど左様に、白色同胞団が人類の運命に深く関与しているらしい。クック女史の一文と、以下ホワイト・イーグルの靈言を読まれて、果たして諸士は、この事をどのように受け取られるか、それは各人の自由としておきたい。

昭和六十一年七月

桑原啓善

受信者グレース・クック女史の序言

私は人生の大部分を費やして、顕幽両界のヴェールを越えるための研究、またその実践に献身してきました。他界とは、地上をとりまく目に見えない霊界、その一層すぐれた世界のことです。死後、人はこの高次の美しい世界を知ることになるのですが、ただ地上の友等との交通は出来なくなります。

本書で、ホワイト・イーグル霊は、私共が地上にありながら、他界生活の素晴らしさを体験できる、その方法を示してくれます。また、生者と死者との間に、善であり幸せである、エーテルの橋を架ける方法も教えてくれます。ホワイト・イーグル霊は、また、霊視がすすんだ霊的体験であると教えて

くれます。動物にも、人間同様に一種の靈視現象があります。しかし両者の間には、雲泥の差があります。前者は幻影を見ているのですが、人間の靈視の場合は、人間の靈性に備わる訓練ないし知の結果として、この現象が生起しているのです。ホワイト・イーグル靈はまたこう教えます。人間が他界を見る場合には、千差万別の程度の差があるということ。すなわち、単なる一瞬の幻影、感じ、色や、光から、更にまた高級靈の実際の姿、他界の優れた風景、さては高級靈界に実在する芸術学院と団体、これらに至るまで見るこ
とが出来るといふのです。

更には、それ以上の世界、筆舌につくせない世界も存在しているのです。このような靈視をして、これを記憶の中にしっかりとめておくためには、靈

性進化の道をたゆみなく追求すること、また日常の靈的生活を堅実につづけていくこと、この必要があります。この靈的生活とは、健全、清淨、調和、努力、そのようにして神に向かう生活であると、イーグル靈が教えています。實際、靈の輝きを求める地上の人間は、力の限り、神を顕現いたさねばなりません。すなわち、身も心も魂をもつくして神を崇敬し、神への愛、隣人への愛によって、世の善意と親切を増進させるようにせねばなりません。ホワイト・イーグル靈の教えの力点は、顕幽両界を貫く力の進歩とは、知識にはなく、靈性の進歩にあると、この点であります。

靈的生活への献身、また内的沈潜を通じて、真理を、永遠の生命を発見しようとする不屈の努力には、必ず酬われるものがあります。すなわち、人に

は意のままに内在の深い霊界に触れる霊力が備わっているという自覚、また
霊性不滅の確信、これらが得られるのです。

この半世紀の間に、私は霊的能力を開発することが出来まして、顕幽両界
の深淵に橋を架け、高い世界の知識を地上に伝えることが出来るようになり
ました。私の指導霊はホワイト・イーグルと申しますが、三十年以上にわたり、
私に通信を送ってきました。この通信の中で、イーグル霊は人間の高級能力
の開発と、その人類への活用を教えてくださいます。これはすなわち、现实生活
の幸福と調和をもたらすことにもなるわけです。

これら通信の一部を選んで、『霊性進化の道』の書名で、今次大戦中に、四
巻の書として出版しました。これらは評判となり版を重ねました。ところが、

これが永い間絶版となっていて、この間に、再版を望む声が多数寄せられています。この要望の中には、ホワイト・イーグル霊じしんからの、少なからぬ要望もあります。イーグル霊は、この霊界からの通信が、霊界との接触や知識を求める人々のお役に立つように、これが喜びをもたらし手助けとなるようにと、こう熱望している次第です。

この改訂版の『靈性進化の道』は、既刊の第一・第二巻の内容の大部分を収録し、改訂再版されたものです。但し、次の続巻で収録する予定になっている、自然の王国に関する部分は除外してあります。また新たに、治病と人間のオーラの章が収録されております。これら通信の大部分は、私とホワイト・イーグル霊の共同作業の初期の時代に、学徒への講義の形で伝えられたもの

です。しかし、これまで印刷されていないものも含まれていまして、これらは、その後の通信からとられた新しいものです。

ホワイト・イーグルの名において、読者の皆さんに申し上げます。本書によって、貴方が心の糧を、また貴方を啓発するものが得られますように。心をこめ思いをこめて。